令和5年度 学校評価報告書

北海道教育委員会 様

北海道土別翔雲高等学校長 北村 京一

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 重点目標とスクール・ミッション

【重点目標】

- 1 基本的な生活習慣の定着と社会人として大切な徳や教養を育てる。
- 2 確かな学力の定着と伸張を図り、自己実現を可能にする力を育てる。
- 3 高く目標を掲げ、その実現に向けて主体的に努力する態度を育てる。
- 4 奉仕活動や部活動などの課外活動に意欲的に参加し豊かな心を育てる。

【スクール・ミッション】

- 1 変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成
- 2 生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、協働的に社会に参画することができる生徒の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の結果の概要と今後の改善方法

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	ICT機器を活用した「個別最適な学び」やGW(グループワーク)、探究活動等による「協働的な学び」について、改善に向けた取組を継続する。中高連携をととした授業交流が、貴重な機会となった。	教職員の学習に対する継続的な指導や授業改善に係る市内中学校との連携した取組について高い評価を得た。次年度以降もさらに連携を深め、ICTの活用や学習評価、教科の専門性を高める機会とする必要がある。
改善方法	(1)EBE協議会をととして、市内中学校との連携をより深め、エビデンスに基づく授業改善を継続して進める。 (2)授業交流で得た成果を共有し、主体的で対話的で深い学びやICTの効果的な活用に係る各教科における授業改善を継続する。	
生活指導	不登校やいじめの未然防止に向けて、ピアサポート学習を実施し仲間を大切に協働して取り組む雰囲気の醸成に努めた。教職員のミニ研修を実施し、いじめの事例研究をGWをととして深めた。	いじめの積極的な認知といじめ対策委員会を中心とした組織対応やいじめ防止に向けたピアサポート学習、教職員の定期的なミニ研修について評価いただいた。
改善方法	(1)いじめの組織対応について教職員で共通理解を図り、いじめの未然防止や初期対応を徹底し、教職員のミニ研修(事例研究)を継続する。 (2)ピアサポート学習を継続し、いじめの無い環境づくりを目指すとともに、ボランティア活動の推進と地域社会との交流をととして、地域に貢献できる人材育成を続ける。	
進路指導	生徒一人一人の進路実現に向けて、教職員が生徒に寄り添った充実した指導に対して一定の評価を受けているが、主催者教育の推進や新たなキャリア形成の方法について、さらなる取組が必要である。	生徒一人ひとりに寄り添った進路指導と成果について高い評価をいただいた。土別市と連携した課題探究や自治体イベントへの積極的な参加・協力についても評価をいただいた。
改善方法	(1)進路説明会や各種講演会、進学講習や卒業生講話等の実施を継続し、保護者への情報提供とともに、地域社会へのPRを充実させる。 (2)普通科生徒の小中学校との教育系インターンシップを継続する。 (3)引き続き地域との連携を深め、職場体験学習や模擬選挙等の出前授業を通じた主催者教育の実践を進める。	
健康安全指導	特別支援委員会の定期的な実施と職員会議での情報共有などで評価を得た。自治体と協力し1日防災学校を実施した。	様々な課題を抱えた生徒に対して、特別支援委員会を中心とした対応に評価をいただいた。
改善方法	(1)分掌の再編に伴い、生徒指導部内に特別支援教育・教育相談担当を置き、より組織対応の充実を図る。 (2)スクールカウンセラーの活用を拡充し、外部機関と連携し生徒・保護者への支援の充実を図る。	
信頼される学校づくり	学校パンフレットを大幅に改訂し、InstagramやYouTubeを活用した情報発信を行い、成果をあげることができた。	SNSを活用した教育活動の情報発信に評価をいただいた。学校HPや学校だよりと連動させて、さらに情報発信に努める必要がある。
改善方法	(1)土別市との一層の連携強化を図るとともに、EBE協議会の取組をととして市内小中学校との連携をさらに深める。 (2)入学生確保に向けて、将来像検討委員会を中心に、学校の魅力化をさらに推進する。	
組織運営	働き方改革の推進に向けて、校務の効率化や業務偏重の改善に課題がある。コアチームを中心に、分掌等へ業務改善への働きかけを行った。	教職員の健康や福利厚生を意識しながら教育活動を進めていることに対して評価された。
改善方法	(1)働き方改革コア・チームを中心に、分掌・学年への働きかけを継続して行い、業務の効率化を進める。 (2)地域との連携や部活動指導員の活用を推進するとともに、部局の改編を検討する。	
教職員の資質向上	教職員の新たな研修制度が開始され、教職員の自発的な研修の受講に向けて定期的な面談や研修機会の提供をより促進する必要がある。	服務規律の保持活動に対し高い評価を得た。より高い意識を持ち続けることができるよう対策を引き続き強化する。
改善方法	(1)教職員との面談や日常的な対話をととして、心理的安全性を確保し、研修の受講奨励を行う。 (2)校内研修を充実させるとともに、教職員の学校内外の研修の積極的な参加に向けた研修の機会を提供する。	
公表方法	(1)PTA役員会、総会 学校評議員会において内容の詳細について説明。 (2)学校ホームページに掲載。	